避難されている方との絆をつくりたい

コープ生活支援ボランティア“きずな”の取り組み

コープさっぽろ

東日本大震災以降、多くの被災者が県内外での避難生活を余儀なくされています。
コープさっぽろでは、札幌市内に避難してきた人びとへの支援を目的に
「コープ生活支援ボランティア“きずな”」を立ち上げ、活動を行なっています。

避難されてきた方とボランティアをつなぐ

「コープ生活支援ボランティア“きずな”」は、避難している方が困っていることを解決するコープさっぽろの組合員組織。組合員の「募金活動だけでなく、生活支援でも役に立ちたい」との声を受け、2011年6月、“きずな”は発足しました。その役割は、避難されている方と支援するボランティアをつなぐことだといいます。

その活動は、まず組合員ボランティアに、“きずな”が提示するボランティア活動メニューの中から支援に協力できそうなものを選び、登録してもらうことから始まります。

> ボランティア活動メニューの一例：
> 子ども教室・荷物整理・引っ越し補助・物資移動運搬・地域案内・高齢者への対応・車の運転など

また“きずな”では、「北海道NPO被災者支援ネット」を通じて、避難している方からの支援要請を受け、その内容が合うボランティアと連絡をとり、マッチング（条件が合う人を派遣）も行なっています。

単なる支援でなく、心のつながりを

これまで“きずな”では、家具運搬などをはじめ、子どもの託児など、避難者に寄り添う活動をしてきました。最近では、“きずな”の支援を受け、大変喜ばれた避難者から、「相談に乗ってほしい」と電話をいただくこともあるそうです。事務局を務めるコープさっぽろ・組織本部基金事務局長の稲垣（いながき）一雄（かずお）さんは、「“きずな”への信頼、そして心と心のつながりが生まれてきたのを感じます」と話してくれました。

一方、“きずな”に登録しているボランティアたちの中から、自主的な活動も始まっています。11月5日と2月18日に行なわれた支援バザーもそんな活動の一つ。2月のバザーでは、冬・春物衣類や未使用の贈答品、学用品などを避難された方に優先的に提供し、列ができるほど好評だったそうです。

「バザーの品も、回収場所が遠いからと、郵送で送ってくださった方も多くいます。温かいお手紙まで添えられ、励まされました。少しでも支援をしたいという組合員さんの気持ちが、ひしひしと伝わりました」（稲垣さん）

長期的に支えていく体制づくりが大切

コープさっぽろでは、“きずな”の活動のほかにも、組合員からの募金を活用し、道内に避難している高校生全員に支援金を支給したり、道内の被災者支援団体に助成金を送ったりしています。

稲垣さんは、「原発事故を含め今回の大災害は、復興まで長い道のりになるかと思います。3月9日には、復興支援の集い、30日には、震災支援ミニミニフェスタ＆パネル展など、この震災を忘れないための取り組みも行ないます。被災された人、支援する人、地域の団体の方々と『考え合う』関係性を築きながら、長期的な支援を行なっていきたいと思います」と話してくれました。

2月18日に行なわれたバザーの様子。被災された方は無料、それ以外の方は、お買い上げ金額を義援金としました。

バザー会場では、北海道大学の学生によるチャリティーコンサートも開催されました。地域と連携した活動であることが感じられます。